

カツオ 東部太平洋

Skipjack, *Katsuwonus pelamis*

管理・関係機関

全米熱帯まぐろ類委員会 (IATTC)

生物学的特性

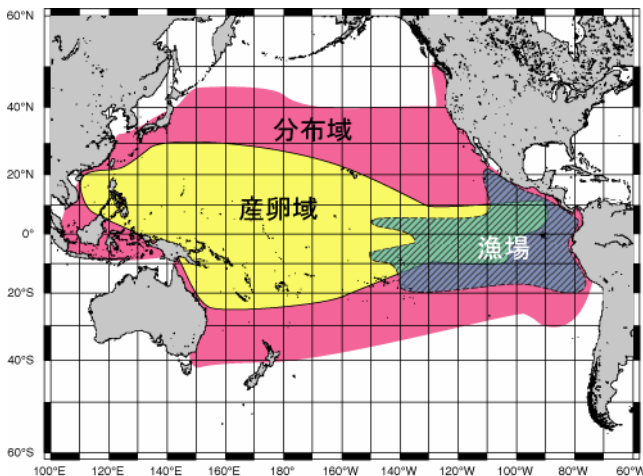
- 寿命: 6 歳以上
- 成熟開始年齢: 1 歳
- 産卵期・産卵場: 周年・表面水温 24℃以上の海域
- 索餌場: 熱帯・温帯域
- 食性: 魚類、甲殻類、頭足類
- 捕食者: まぐろ・かじき類、さめ類、海鳥類など

利用・用途

缶詰原料

漁業の特徴

現在の漁獲はほとんどがまき網漁業による。本海域のまき網イルカ付き操業では僅かなカツオしか漁獲されず、カツオはこの海域での主対象魚種とはなっていない。国別ではエクアドルが約半分を占め、メキシコ、アメリカ、バヌアツ、スペイン、パナマ等が 1 万トン以上の漁獲国となっている。日本は本海域でカツオを主対象とした漁業を行っておらず、漁獲量ははえ縄による僅かな量のみである。

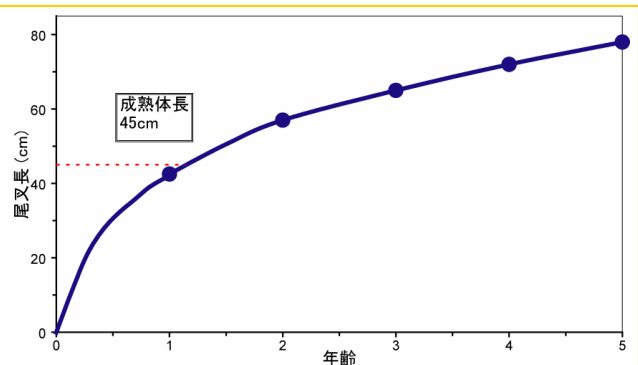


東部太平洋のカツオの分布と漁場
(Matsumoto et al. 1984, Schaefer 2001)



最近一年間の動向

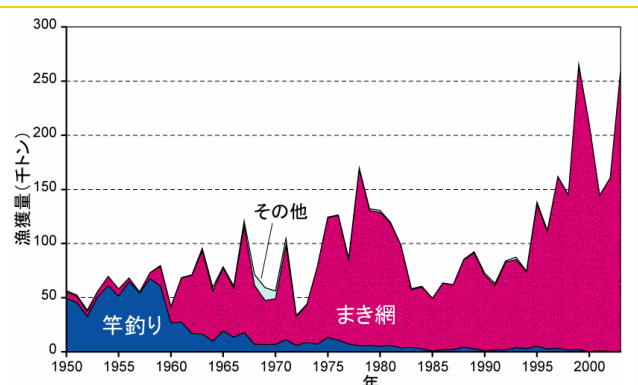
2005 年の本資源の総漁獲量は約 28 万トンであり、前年と比べて 23% 減少した。2004 年の本資源の国別漁獲量の対前年比を見ると、エクアドル、メキシコおよびバヌアツの漁獲量は減少し、パナマとベネズエラの漁獲量は増加した。



東部太平洋のカツオの成長 (Matsumoto et al. 1984)

漁獲の動向

1950 年代までは竿釣り漁業を主として約 5 万トンの漁獲であったが、1960 年代から竿釣りは急速に減少し、代わってまき網による漁獲が主となった。1990 年代後半から漁獲量は増加傾向にある。



東部太平洋における漁法別カツオ漁獲量
(データは 2006 年の IATTC レポートより)

資源状態

加入量の変動が大きく、資源量は加入量の変動にともない変化する。2002年と2003の連続した強い加入が、2003年の資源量と漁獲量を増加させている。再近年の加入量推定値は信頼性が低い値ではあるが、水準が低く、そのため今後の資源量と漁獲量の低下が示唆される。漁獲死亡率は自然死亡率と同等か、もしくは低いと推定されている。本資源の量変動は加入量変動で引き起こされてきたため、将来の資源動向も加入量の水準で決定されると考えられる。

管理方策

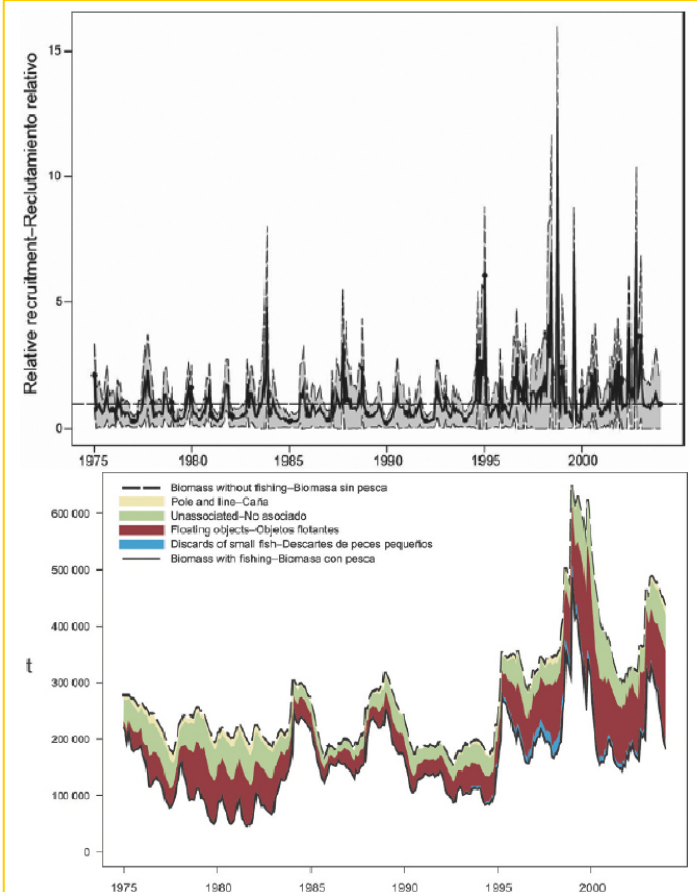
漁業が資源量の減少を引き起こしている証拠は見られず、特段の資源管理方策はとられていない。

資源評価まとめ

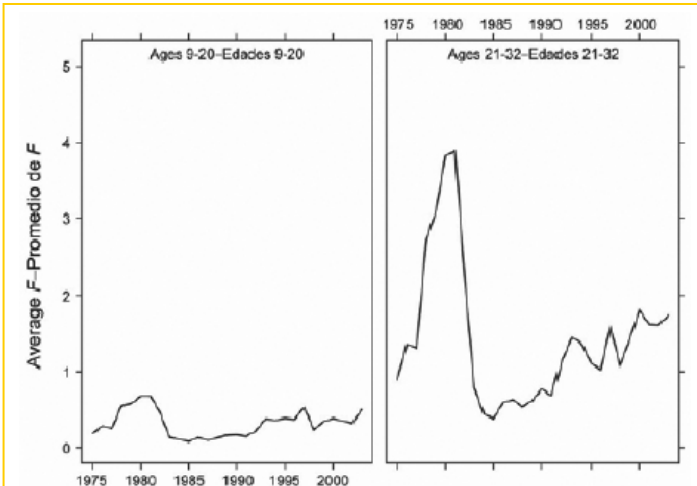
- 資源評価は IATTC により実施
- 資源量は、加入量に伴い変化する
- 漁業が資源の減少を引き起こしている証拠は無い

資源管理方策まとめ

- 本資源には IATTC による資源管理方策はとられていない
- 主要漁業のまき網には、キハダ・メバチ資源の保護のため、昨年引き続き1ヶ月の禁漁期間



A-SCALA で推定したカツオの加入量(平均に対する相対値、上)と資源量(千トン、下)(2006年のIATTCレポートより)



A-SCALA で推定した月毎の漁獲死亡係数、9～20月齢をグループ化した平均(左)と21～32月齢の平均(右)(出典同上)

カツオ(東部太平洋)の資源の現況(要約表)

資源水準	高位
資源動向	横ばい
世界の漁獲量 (最近5年)	14.5～26.2万トン 平均:19.5万トン
我が国の漁獲量 (2000～2004年)	23～91トン 平均:52トン